

大阪狭山市文化財報告書13

大阪狭山市内遺跡群 発掘調査概要報告書5



1995年3月

大阪狭山市教育委員会

大阪狭山市内遺跡群 発掘調査概要報告書5

1995年3月

大阪狭山市教育委員会

序 文

大阪狭山市内には、府の史跡名勝に指定されております狭山池をはじめとして、多くの文化財があります。本年は狭山池において、池築造期にあたる7世紀前半に埋設された東柵遺構や、近世に大型構造船の部材を転用して造られた西柵遺構などの重要な発掘調査が行われ、多大な成果を得るとともに大きな関心を集めました。

このような調査と併行しまして、大阪狭山市教育委員会では、平成2年度より継続して行っております個人住宅建設に先立つ発掘調査を、本年度も国と大阪府の補助金を受けて実施することができました。

本年度は、狭山藩陣屋跡と池尻城跡と陶邑窯跡群と新池遺跡で発掘調査を行い、貴重な成果を得ることができました。本報告書はこれらの調査結果をまとめたものです。本書が各分野において研究の一助となれば、まさに望外の喜びです。

本年度の調査におきましては、建築主の皆様ならびに調査地周辺の皆様に多くのご協力を賜りました。厚く感謝申し上げます。また、今後とも文化財保護に対する御理解と御支援をよろしくお願ひ申し上げます。

平成7年3月

大阪狭山市教育委員会

教育長 上 谷 三 郎

例　　言

1. 本書は国庫および府費の補助を受け、大阪狭山市教育委員会が平成6年度国庫・府費補助事業として大阪狭山市内で実施した、個人住宅等建設に伴う埋蔵文化財の緊急発掘調査の成果をまとめた概要報告書である。
2. 収録した各調査は以下の通りである。
 1. 狹山藩陣屋跡 : 94-1区・94-2区
 2. 池尻城跡 : 94-1区・94-2区・94-3区
 3. 陶邑窯跡群 : 94-1区・94-2区・94-3区
 4. 新池遺跡 : 94-1区現地調査は大阪狭山市教育委員会生涯学習部生涯学習推進課 植田隆司が担当した。
3. 現地調査に当たっては、桜渕繁太郎・高林正男をはじめとする諸氏の協力を得た。
遺構・遺物の整理作業は、植山てる江・五福實幸・中尾美津江・扶川陽子・寺西美保子・中橋朋子が主としてこれを行い、また、吉本和美・山崎和子・笹岡祐里子・林奈智香をはじめとする諸氏の協力を得た。
遺構・遺物の写真撮影は担当者が行なった。なお、遺物の写真撮影については阿南辰秀・伊藤慎司の両氏に協力を得た。
4. 本書の編集は植田が行なった。執筆は、狹山藩陣屋跡94-1区出土遺物と池尻城跡94-3区出土遺物を大阪狭山市教育委員会生涯学習部生涯学習推進課 市川秀之が行い、その他を植田が行なった。

本文目次

序文	大阪狭山市教育委員会教育長 上谷三郎	(頁)
例言		
はじめに		1
1. 狹山藩陣屋跡	94-1区	3
	94-2区	9
2. 池尻城跡	94-1区	11
	94-2区	14
	94-3区	16
3. 陶邑窯跡群	94-1区	20
	94-2区	22
	94-3区	23
4. 新池遺跡	94-1区	25

挿図目次

第1図	大阪狭山市周辺の地形と遺跡分布	2
第2図	狭山藩陣屋跡調査区位置図	4
第3図	狭山藩陣屋跡94-1区 調査箇所	4
第4図	狭山藩陣屋跡94-1区遺構平断面図	5
第5図	狭山藩陣屋跡94-1区出土遺物(1)	7
第6図	狭山藩陣屋跡94-1区出土遺物(2)	8
第7図	狭山藩陣屋跡94-2区 調査箇所と土層断面図	10
第8図	池尻城跡調査区位置図(1)	11
第9図	池尻城跡調査区位置図(2)	12
第10図	池尻城跡94-1区 調査箇所	12
第11図	池尻城跡94-1区遺構平断面図	13
第12図	池尻城跡94-2区 調査箇所と土層断面図	15
第13図	池尻城跡94-3区出土遺物	17
第14図	陶邑窯跡群調査区位置図(1)	18
第15図	陶邑窯跡群調査区位置図(2)	19
第16図	陶邑窯跡群94-1区 調査箇所	20

(頁)

第17図	陶邑窯跡群94-1区遺構平断面図	21
第18図	陶邑窯跡群94-2区 調査箇所と土層断面図	22
第19図	陶邑窯跡群94-3区 調査箇所	23
第20図	陶邑窯跡群94-3区遺構平断面図	24
第21図	新池遺跡94-1区 調査箇所と土層断面図	26

図 版 目 次

- 図版 1 狹山藩陣屋跡94-1区
- 図版 2 狹山藩陣屋跡94-1区・池尻城跡94-2区
- 図版 3 池尻城跡94-1区
- 図版 4 陶邑窯跡群94-1区
- 図版 5 陶邑窯跡群94-2区
- 図版 6 陶邑窯跡群94-3区
- 図版 7 狹山藩陣屋跡94-1区出土遺物
- 図版 8 狹山藩陣屋跡94-1区・池尻城跡94-3区出土遺物

はじめに

大阪狭山市は、ベッドタウン化された昭和40年代以降に急激な人口増加をみた。近年においては、その頃の勢いは無いとはいえ、住宅開発は引き続き盛んである。また、その頃に建設された木造住宅の建替えや増改築が行われる時期にさしかかっていることもあり、これらに伴う埋蔵文化財の発掘届の提出件数にも減少の兆しがみられない。この傾向は今後も持続するものと考えられる。

本報告書においては、本年度に大阪狭山市教育委員会が実施した、市内における個人住宅建設等に伴う発掘調査の成果を報告する。ただし、狭山ニュータウンなど既に大規模な造成工事が行われた箇所における住宅の新築・増改築に際しては、本市教育委員会は立会調査を行い、これに対応している。立会調査を行なった結果、遺構・遺物が検出されなかった事例が多数あったが、これらについては報告を省略する。

ところで、大阪狭山市域の遺跡分布と地形分類は第1図の通りである。本市は読んで字のごとく、西側の泉北丘陵と東側の羽曳野丘陵に挟まれた地形で、この両丘陵の間に幾筋かの南北方向の谷筋が走っている。これらの谷筋から、旧石器時代・縄文時代の打製石器が幾度か採集されている¹⁾。

弥生時代の遺跡としては、市域南部の高地において、弥生時代後期の集落跡が検出された、茱萸木遺跡がわずかに知られるのみである。

古墳時代中期に入ると、泉北丘陵を中心にその造営が展開された陶邑窯跡群が東方へとその域を拡大した結果、本市域西端に相当する陶器山丘陵とその北側の高位段丘の斜面に須恵器窯が数多く築かれた。古墳時代後期の6世紀中葉～後葉になると、陶邑窯跡群は、さらに東方へとその域を拡大し、本市域の至るところの中位段丘崖に窯を築き、須恵器生産を行う。7世紀前葉～中葉になると、窯焼きの燃料である薪や窓を築く斜面が不足したようであり、7世紀前葉に築造されたばかりの狭山池の池の水を堰き止める堤の外側斜面のような不適当な箇所にまで窯を築くようになる²⁾。

この狭山池が築かれた主谷の東西に広がる中位段丘上に、東野廃寺・池尻城跡・狭山神社遺跡・狭山藩陣屋跡などの古代・中世・近世の諸遺跡が成立している。

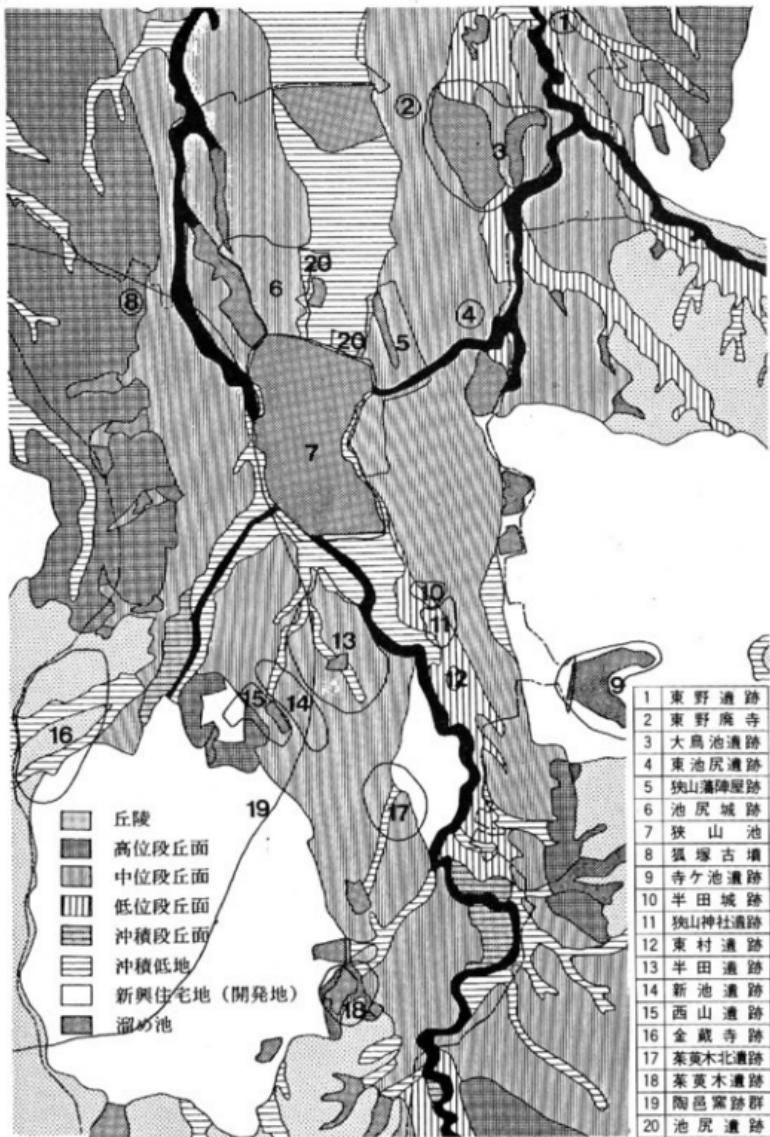
最近では、個人住宅建設を中心とする開発が、こうした中位段丘上・高位段丘上で盛んに行われている。このため、陶邑窯跡群の旧地形を保つ箇所や狭山藩陣屋跡・池尻城跡での調査件数が近年増加の傾向にある。本報告書に記載した調査成果も、この3遺跡を中心としたものである。

註記

1) 西野良政氏・上野正和氏・西岡勝彦氏の採集資料などがある。

上野正和「狭山の考古学研究と私」『さやま誌 大阪狭山市文化財紀要』創刊号、1992

2) 狹山池調査事務所、1993年・1994年調査



第1図 大阪狭山市周辺の地形と遺跡分布

1. 狹山藩陣屋跡

狹山藩陣屋跡は、狹山池の東側の中位段丘上に立地している。豊臣秀吉によって小田原城を落とされた戦国大名北条氏の末裔が、近世初期にこの地に陣屋を開き、以後明治維新に至までの間、一貫して陣屋が営まれた。

明治以降、陣屋の域内における景観は大きく変化し、現在ではほぼ全体が住宅地となっている。近年、既存住宅の建替えや、小規模の再開発が増えつつあるため、狹山藩陣屋跡の域内における埋蔵文化財発掘調査の数が増大している。これらの発掘調査の結果、少しづつはあるものの、狹山藩の陣屋の構成が明らかになりつつある。

本報告書にて報告を行なっている本年度の調査区の位置は、第2図のとおりである。

狹山藩陣屋跡94-1区発掘調査報告

狹山藩陣屋跡94-1区は、大阪狭山市狹山四丁目2460番地1号に所在する。

本調査区は、幕末から明治初頭の陣屋の配置を表す「狹山藩陣屋絵図」¹⁾では、陣屋の上屋敷にあった撃劍道場の入口部分と撃劍道場北側の井出俊造の屋敷地に相当する。

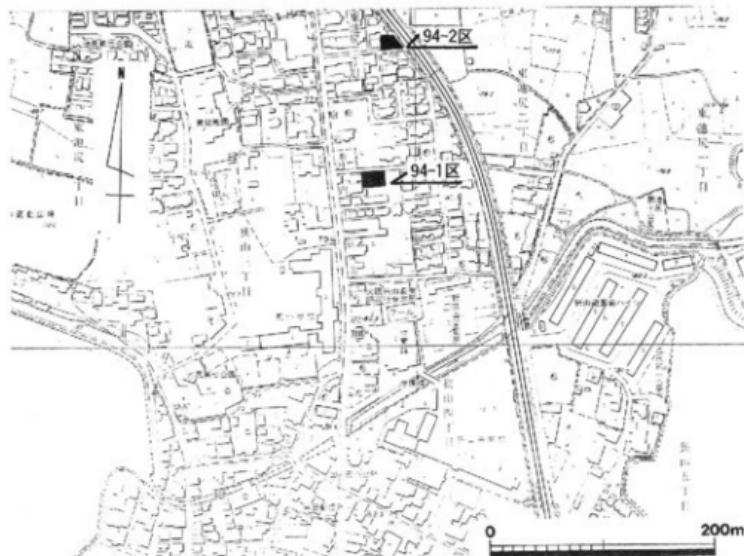
調査は第3図の箇所に南北2.0m・東西5.1mの調査区を設定して、平成6年4月14日・15日に行なった。

(1) 遺構と層序

現地表面から約20cmの深さまでガラ混じりの整地層が続き、その下層に厚さ約10cmの暗黄褐色砂質土層と暗灰褐色砂質土層がみられ、その直下で、厚さ10cm以上の暗黄褐色粘質土層の上面を遺構面とする、上層遺構面があらわれた。

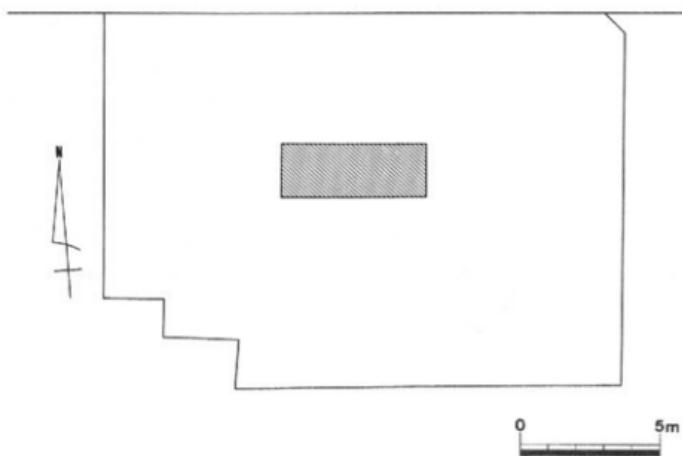
上層遺構面では、調査区東端で南北方向にのびる溝を1条検出したほか、ピットを7と土坑を3検出した。ピットの深さはいずれも10cm未満と浅い。なお、遺物は、東側の土坑埋土から、陶器碗・すり鉢などが出土した。

上層遺構面のベース層の直下は明黄灰色粘砂土層となり、この上面で、下層遺構を検出した。下層遺構面では、幅約80cm・深さ約20cmの南北方向にのびる溝と、この溝を北側でカットする土坑を検出した。土坑は東西長3.5m・深さ約65cmを計測する。この土坑の埋土である暗灰褐色砂質土層中から、陶器碗・すり鉢・七厘・土人形・引手状鉄器などが出士した。

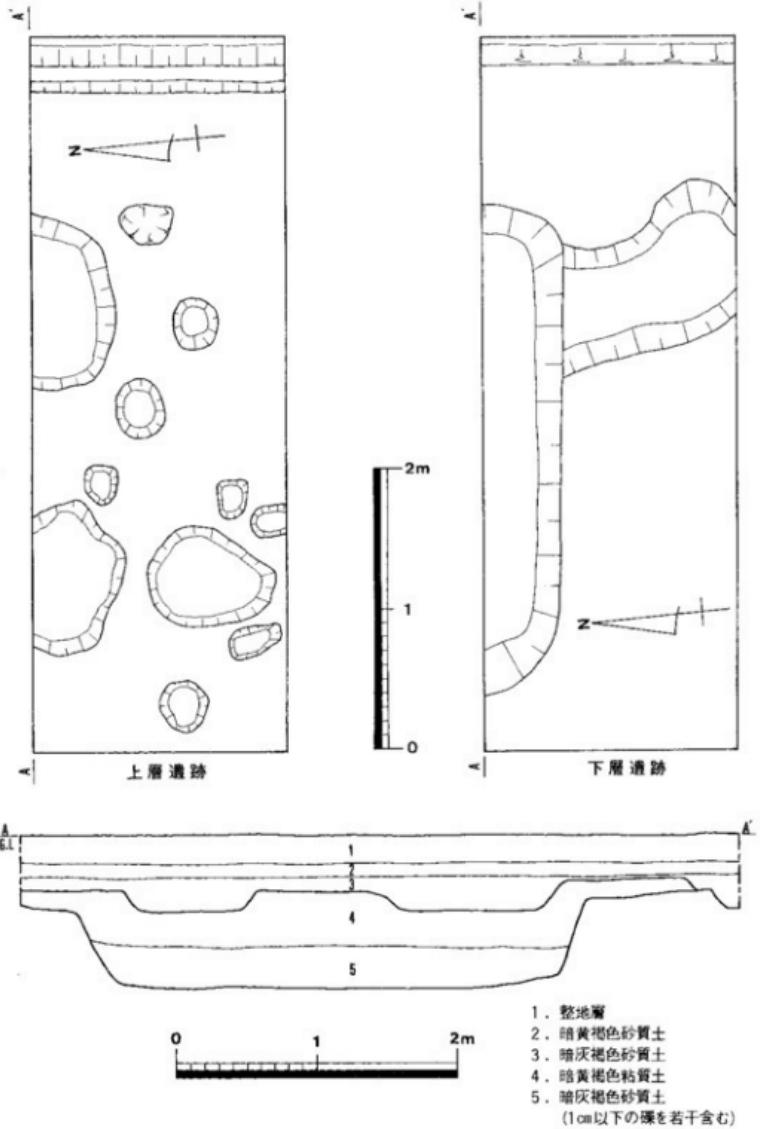


第2図 狹山藩陣屋跡調査区位置図

道 路



第3図 狹山藩陣屋跡94-1区 調査箇所



第4図 狹山藩陣屋跡94-1区 遺構平面面図

(2) 遺 物

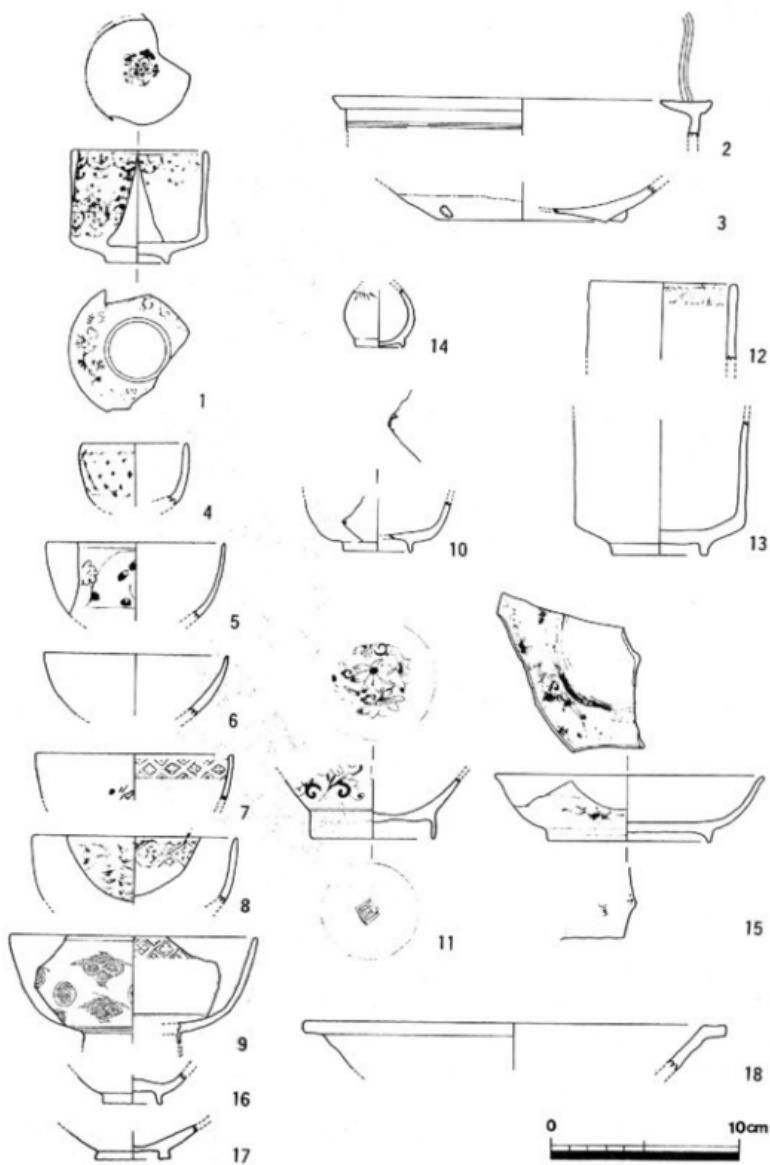
上層遺構から出土した遺物は、コンテナパット約1箱分である。その大半は図化不能な瓦の破片である。そのうち、3点のみを図化することができた。(第5図1~3)

1は半筒形の中碗は、肥前系の磁器である。2は器種不明の陶器。全体に暗緑灰色の釉を施し、焼成はよく焼きしまっている。上面・外面に二本線の文様がある。産地は不明。3は土鍋の底部である。内外面とも鉄釉を施し、底部は露胎。三足の一つと思われる脚が付くものの形骸化しており、接地しない。瀬戸美濃系の陶器である。

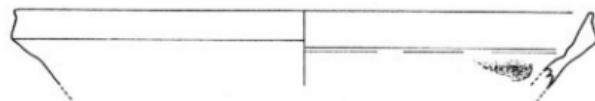
下層遺構から出土した遺物は、コンテナパット約2箱分である。瓦片などの図化できないものも多いが、23点を図化できたのでここに報告する。(第5図4~18・第6図)

4は肥前系磁器で、器種は染付の丸形小碗かあるいは酒杯。外面に格子文を施す。5は肥前系磁器で、器種は染付の丸形中碗。外面に花唐草文を施す。6は肥前系磁器で、白磁の丸形中碗。内外面とも無文である。7は肥前系磁器で、染付の丸形小碗。外面の文様は不明。内面縁内に四方擗文を施す。8は肥前系磁器で、染付の丸形小碗。外面に草木文、内面縁内に四方擗文を施す。9は肥前系磁器で、染付の丸形中碗。外面に丸に「寿」字と鳥文を施す。内面縁内に四方擗文を施す。10は肥前系磁器で、器種は染付の酒杯。外面の文様は不明。内面見込みに玉弁花。11は肥前系磁器で、染付の台東碗。外面は6区画して草花文と字を配する。見込み部にも草花文を施す。底部高台内には四角内に「福」字を描く。12は肥前系磁器で、半筒小碗。外面は青磁釉を施して無文。内面縁内に四方擗文。13は肥前系磁器で、半筒中碗。外面のみ青磁釉を施す。内外面とも無文。14は肥前系磁器で染付のミニチュア徳利。外面に笹文を施す。15は肥前系磁器で染付の皿。外面は草花文、内面は風景。底部高台内に「大明年製」銘がある。16は肥前系磁器。白磁か。底部のみ残存し、器種は不明。17は瀬戸美濃系陶器で、器種不明。内外面ともに乳白色の釉を施す。底部高台は削り出して、この部分のみ露胎。18は肥前系陶器で、器種は不明であるが、あるいは鉢類か。口縁端部が外側に水平にのびる。刷毛目唐津。19は備前産すり鉢である。残存部が少なく細部は不明。20は堺産すり鉢で、口縁端部内側に段をもつ。外面は回転ヘラ削り調整。21はすり鉢。須恵質で、すり目の間隔は大きい。東播地方の産である可能性が強い。22・23は堺産すり鉢。24は土師質である。七厘部品のサナであろうか。中央に1つ、周囲に6つの孔を有する。全体は皿形で、内面は回転ナテ調整、外面は回転ヘラ削り調整を行なっている。25は土人形の鳥。26は鉄製品。筆筒などの引手であろうか。1本の棒を「ひ」字形に曲げて造る。先端は尖らしている。

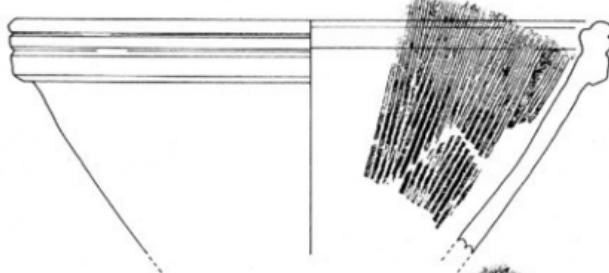
当該調査区から出土した遺物の全体の様相をながめると、圧倒的に肥前産の磁器が占める割合が高い。また、下層遺構出土遺物は、伊万里では見込み部の五弁花やコンニャク印判に示されるように、18世紀の遺物を主体としている。堺産のすり鉢も概ねこの時代のものであろう。ただし、11のように後代のものも若干含まれている。上層遺構の遺物は、点数も少ないので時期は明確ではないが、1のように18世紀の所産と思われるものを含む。



第5図 狹山藩陣屋跡94-1区 出土遺物(1)



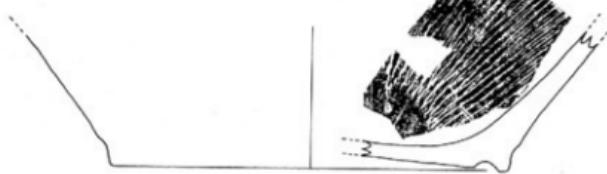
19



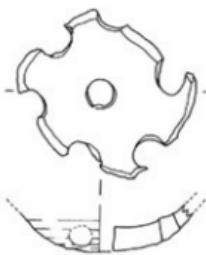
20



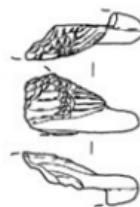
21



22



23



24



25



26

第6図 狹山藩陣屋跡94-1区 出土遺物(2)

狹山藩陣屋跡94—2区発掘調査報告

狹山藩陣屋跡94—2区は、大阪狭山市東池尻三丁目1127番地に所在する。

本調査区は、「狹山藩陣屋絵図」では江馬廉吉の屋敷地の東側（上屋敷の域外）に相当すると考えられる。

調査は、第7図の箇所において、南北1.0m・東西4.2mのトレンチを設定して、平成6年4月18日に実施した。

(1) 層序

現地表面から約10cmの深さまでガラ混じりの整地層が続き、その直下において、旧表土層があらわれる。その下層は、厚さ約18cmの黄褐色砂質土・厚さ約16cmの淡黄灰色砂質土となり、調査区西東側ではその直下で地山面があらわれる。この地山面は、調査区内で、西側へ向って傾斜している状況が看取され、調査区西側では淡灰黄色砂質土層がその直上を被覆している。この灰黄色・黄灰色を呈する砂質土層の上面が、陣屋跡域内においては遺構面となっているものと思われる。

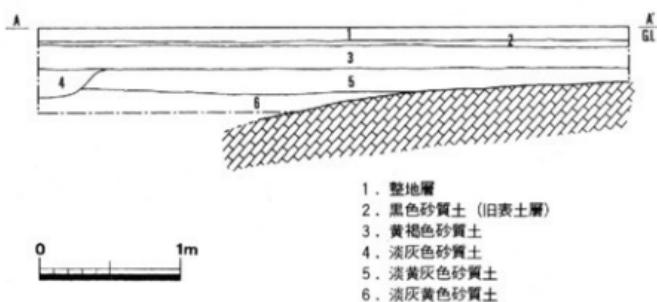
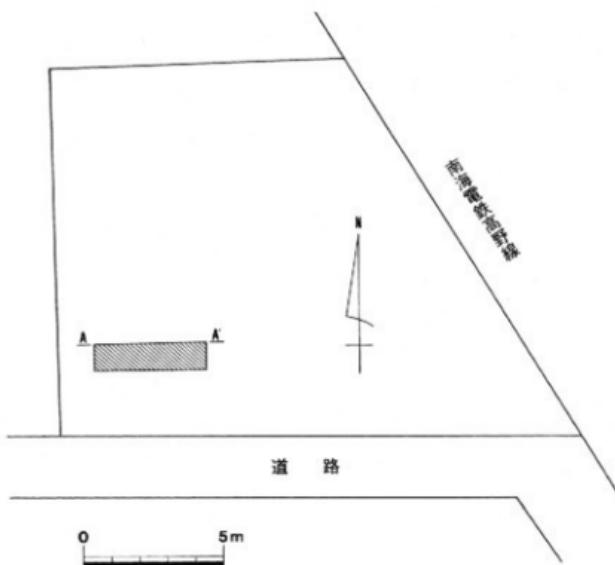
狹山藩陣屋跡上屋敷の東端部分外側に相当する当該地点のこの地山面の傾斜は、地山の掘削を行い、その上に盛土をして整地を行なったと想定される陣屋用地の造成工事によるものではないかと推定される。

なお、当該調査区では、遺構の検出に極力努めたものの、それらしきものは確認できなかった。また、各層における遺物の包含も認められなかった。

註記

1) 都築家所蔵のこの絵図は下記の文献に掲載している。

大阪狭山市教育委員会「大阪狭山市内遺跡群発掘調査概要報告書3」「大阪狭山市文化財報告書」9、1993年
大阪狭山市教育委員会・狭山池調査事務所『絵図に描かれた狭山池』1992年



第7図 狹山藩陣屋跡94-2区 調査箇所と土層断面図

2. 池尻城跡

池尻城跡は、狭山藩陣屋跡と谷を隔てて向いあう位置、狭山池からみて北西方向の中位段丘上に立地している。この場所に中世の城跡が存在するであろうことは、その段丘崖が規格性に富んだ形状を呈していることから、早くから指摘されていた。

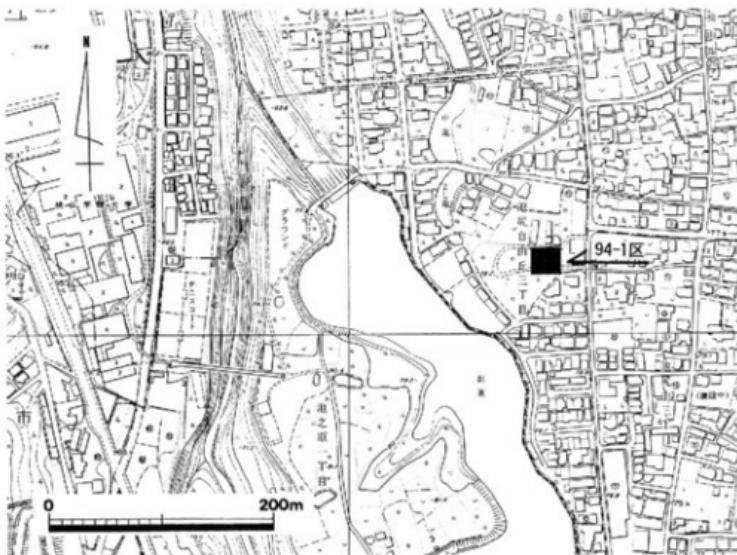
昭和60年に、当該地域の宅地開発に伴って、大阪府教育委員会によって実施された緊急発掘調査¹⁾では、池尻城の縄張りがほぼ明らかなものとなった。この調査地を含めて、池尻城跡として埋蔵文化財包蔵地の範囲内と定めている地域は、ほぼ全域が宅地で埋め尽くされており、現在では、これら既存住宅の建て替えに伴う発掘調査が中心となっている。

本報告書で報告を行なっている本年度の調査区の位置は、第8・9図のとおりである。

池尻城跡94—1区発掘調査報告

池尻城跡94—1区は、大阪狭山市池尻自由丘三丁目188番地・203番地1号に所在する。

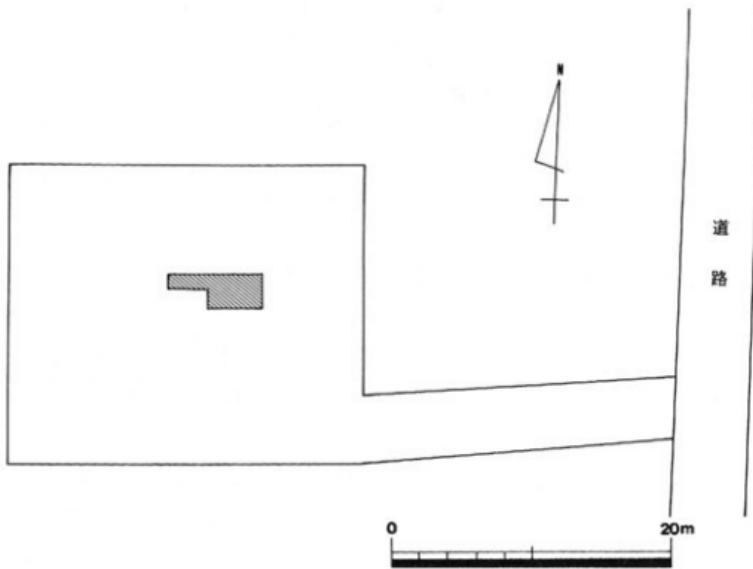
調査は、第10図の箇所に、南北 2.4m・東西 6.8mの調査区を設定して、平成6年9月7日から同月9日まで行なった。



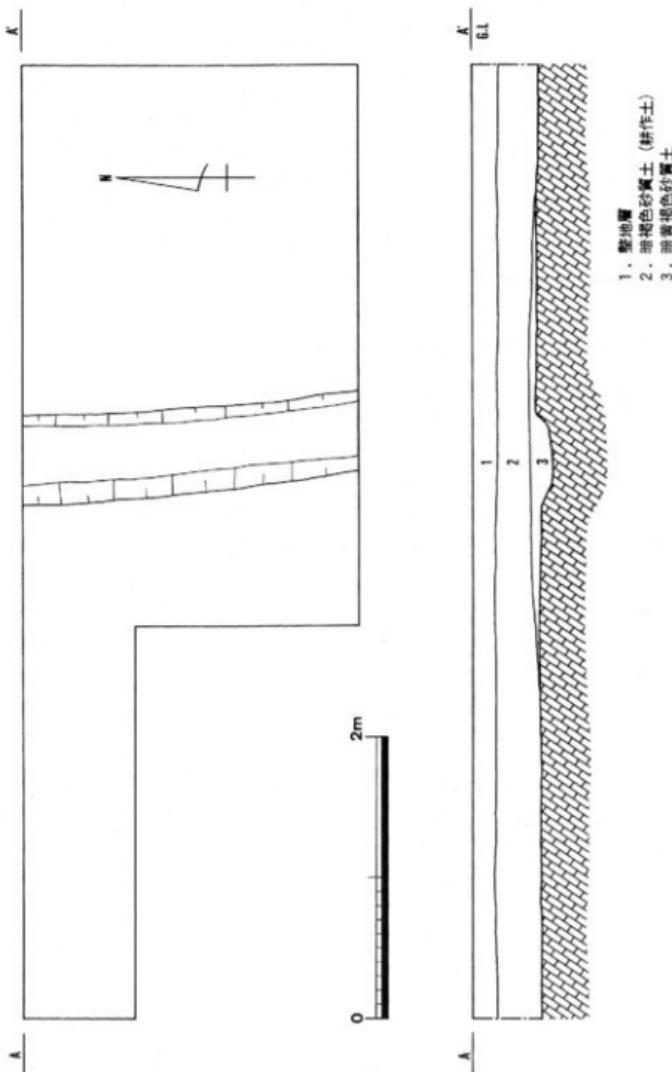
第8図 池尻城跡調査区位置図(1)



第9図 池尻城跡調査区位置図(2)



第10図 池尻城跡94-1区 調査箇所



第11図 池尻城跡94-1区 造構断面図

(1) 遺構と層序

現地表面から約20cmの深さまで整地層が続き、その下層に厚さ約30cmの暗褐色砂質土層が存在する。この砂質土は、当該地にて最近まで造園業が行われていたために、その樹木の根などによって黒色に変化し、また、施肥によってかなり攪拌されている。

この砂質土層の直下および、その下層に位置する厚さ8cm程度の暗黄褐色砂質土層の直下で地山面があらわれる。

遺構は、地山面を掘込んだ溝1条を検出した。溝はほぼ南北方向にのび、その幅は60cm～65cmを測る。その深さは約10cmである。

当該調査区の遺構面を被覆する土層中と遺構埋土から、遺物の出土をまったくみなかつたために、この溝が使用されていた時期やその用途は不明である。

池尻城跡94—2区発掘調査報告

池尻城跡94—2区は、大阪狭山市池尻中三丁目604—23・24に所在する。当該地点は、平成3年度に狭山池調査事務所が発掘調査を行なった池尻城跡91—1区²³⁾の北東側の住宅地内にある。また、昭和60年に大阪府教育委員会が発掘調査を行なった池尻城の中心部分と一区画を隔てた南側にあたり、狭山池西岸から池尻城跡の東側斜面へ連続する中位段丘崖にもほど近いため、池尻城跡と関連する何らかの遺構の検出が期待された。

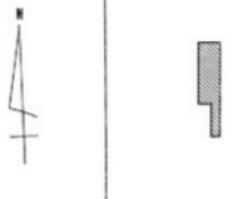
調査は、第12図の箇所に、南北3.3m・東西0.8mの調査区を設定して、平成6年10月17日から同月20日まで行なった。

(1) 層序

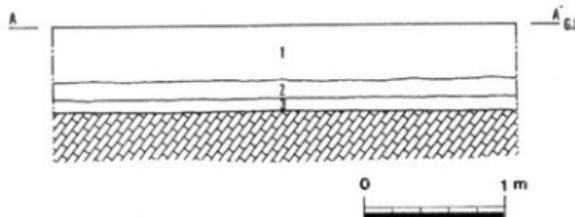
現況の地表面から約40cmの深さまでは、宅地の造成に伴うガラ混じりの整地層が続く。その下に、厚さ約12cmの淡褐色砂質土層があり、さらにその下に厚さ約10cmの灰褐色砂質土層が存在する。この直下で、非常に堅い地山面に達する。

整地層を除去したのち、各層の上面において遺構の検出を試みたものの、当該調査区内では、遺構の存在を認めるには至らなかった。また、各層における遺物等の包含も確認できなかった。

道 路



0 5m



1. 整地層
2. 淡褐色砂質土
3. 灰褐色砂質土 (10cm以下の砾を含む)

第12図 池尻城跡94-2区 調査箇所と土層断面図

池尻城跡94—3区発掘調査報告

池尻城跡94—3区は、大阪狭山市池尻中一丁目 520-1に所在する。当該地点は、平成2年度に本市教育委員会が発掘調査を行なった池尻城跡90—3区¹⁾の南東側にあたり、狭山池西岸から池尻城・太満池西岸へと連続する中位段丘斜面の上端付近に立地する。

当該調査区のあるこの辺りの住宅地（90—3区と道路を隔てて東側）は、傾斜地に盛土を施して宅地造成をかなり以前に行なったことが、地形の目視観察から明瞭であったため建物の基礎溝を掘削する際に立会調査を実施し、土層断面を観察するにとどめた。

立会調査は、平成6年4月2日に行なった。

その結果、現地表面から約50cmの深さまでの土層を観察したが、ガラ混じりの整地層しか確認できなかった。おそらく、現地表面から1m～2m程度の深さに旧地表面が緩傾斜をなして遺存するものと思われる。

なお、この整地層中に若干の遺物の混入がみられたので、ここに報告を行う。

(1) 遺 物

整地層中に混入していた遺物のうちで採集できたものは、アミカゴ1つ分に満たない。さらに、その中で図化が可能であった遺物は4点のみである。（第13図）

1は肥前系磁器で、銅版刷りの染付を施した丸形中碗である。2も肥前系磁器で、器種は不明。外面の一部に青磁釉を施している。

3はキセル（煙管）の雁首部分である。雁首は1枚の銅板を巻いて造っている。ラウとの接続部のいわゆる肩や、火皿部の補強帯はみられない。ラウは一材を半裁して中を刳貫き合わせたもので、長さ4.4cmが残存している。

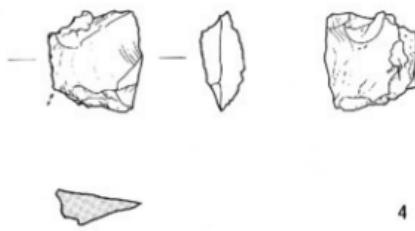
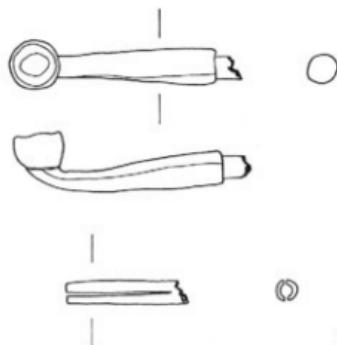
4はサヌカイトの打製石器で、スクレイパー。形状は台形で、底辺にあたる部分に刃をもつ。長さ3.7cm・幅3.3cmを計測する。

出土遺物の点数が少なく、出土層位が整地層内であるため、遺物個々の時期を特定することは困難である。ただ、1・2などは明治以後の所産と考えられる。

註記

1) 小林義孝「池尻城跡発掘調査概要」1987年、大阪府教育委員会

2) 市川秀之「付替市道（池尻城跡）予定地発掘調査」『狭山池調査事務所平成3年度調査報告書』1992年



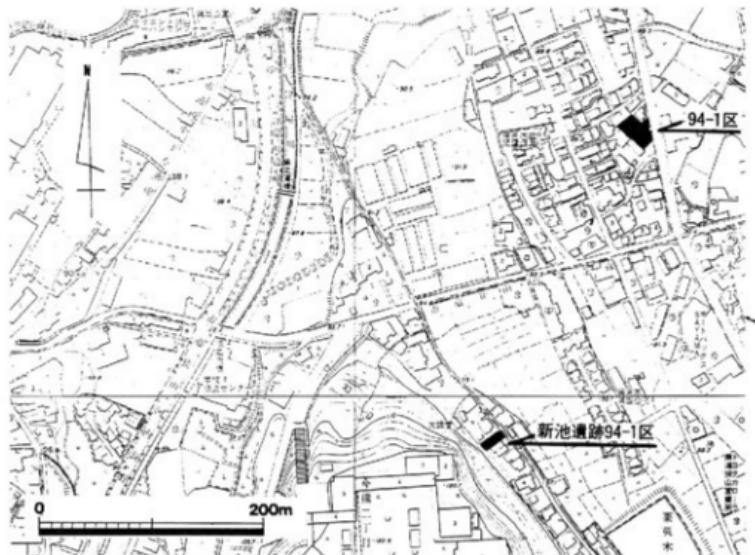
第13図 池尻城跡94-3区 出土遺物

3. 陶邑窯跡群

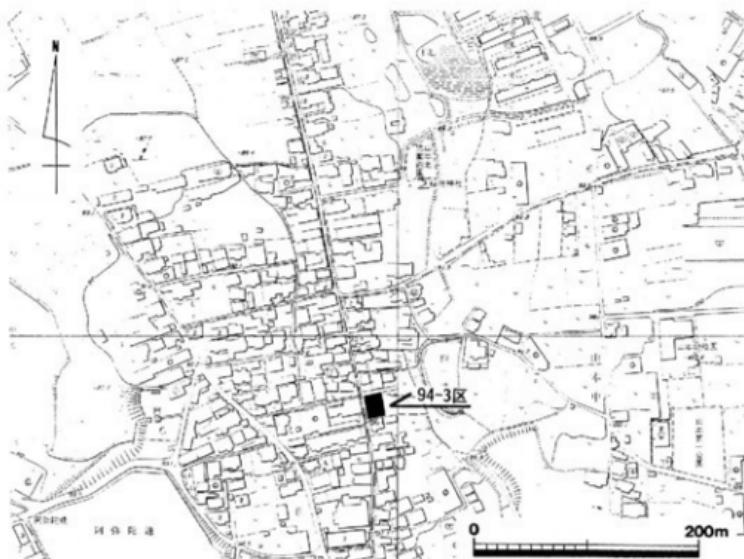
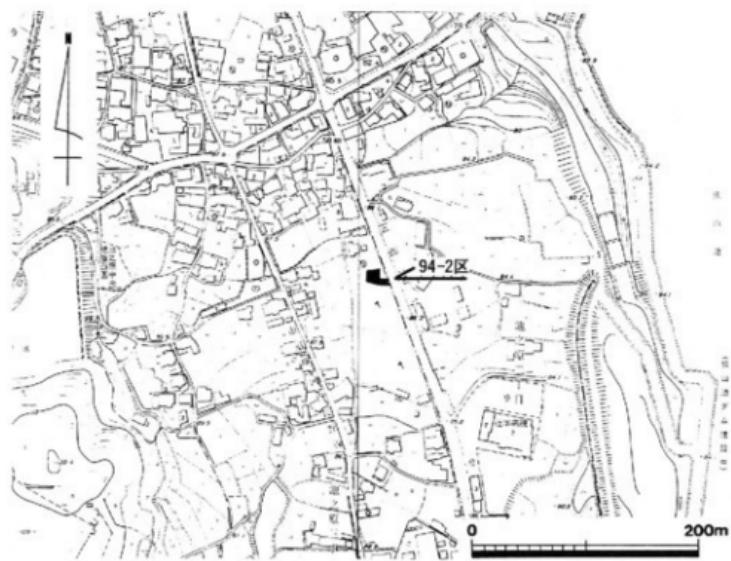
陶邑窯跡群は、現在の行政区画の上では堺市・和泉市・岸和田市・大阪狭山市にわたる広範囲の地域に分布している。本市域内では狭山池西岸以西の地域、すなわち陶器山丘陵およびそれに連なる高位段丘・中位段丘に立地する窯跡を陶邑窯跡群中に含め、『大阪狭山市埋蔵文化財分布図』で埋蔵文化財包蔵地としている。しかし、実際には狭山池東岸以東の中位段丘崖にも多くの須恵器窯跡が存在しており、学術的にはこれらを陶邑窯跡群中に含めて理解する方が妥当であろう。

本年度は3箇所で調査を行なった。これらの調査箇所の位置は、第14図・第15図に示す通りである。

昨年度は、1基の須恵器窯跡の焼成部を発掘調査したが、本年度は、陶邑窯跡群として埋蔵文化財包蔵地となっている範囲内における、窯の造営に伴う副次的な遺構や、古墳時代から近世に至るまでの種々の遺構の検出をも念頭において、調査を実施した。



第14図 陶邑窯跡群調査区位置図(1)



第15図 陶邑窯跡群調査区位置図(2)

陶邑窯跡群94—1区発掘調査報告

陶邑窯跡群94—1区は、大阪狭山市茱萸木三丁目1434—1に所在する。本調査区は、西除川と三屋川に挟まれた中位段丘上に立地する。

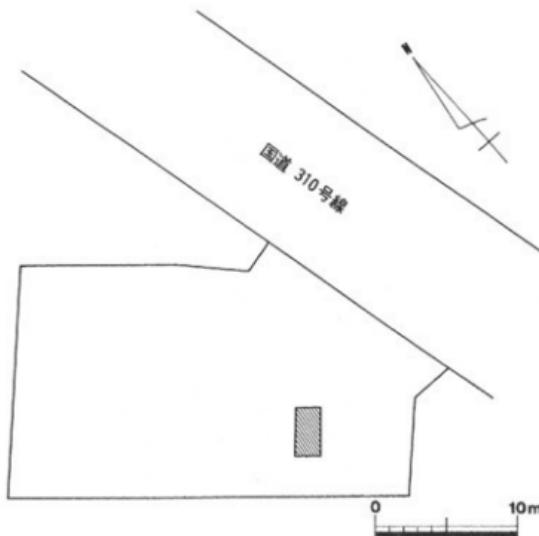
調査は第16図の箇所に3.4m×1.7mの調査区を設定して、平成6年11月14日から同月18日まで実施した。

(1) 遺構と層序

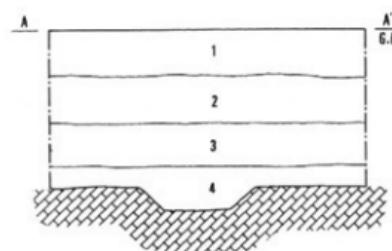
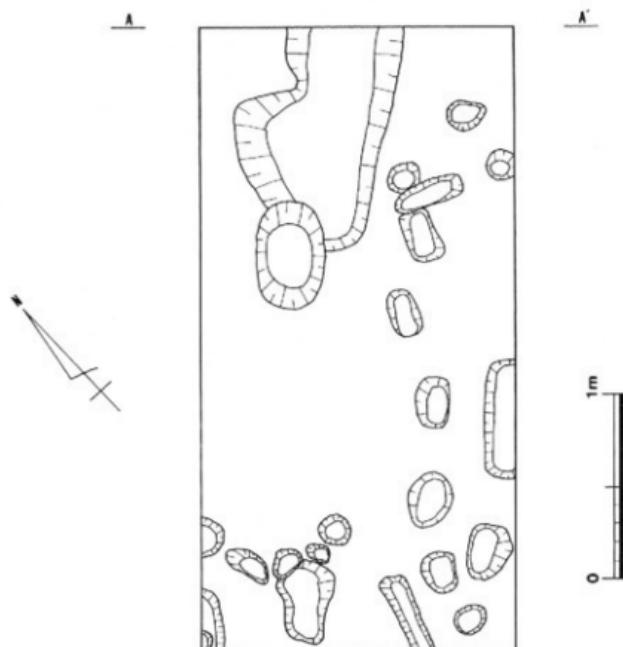
現地表面から約50cmの深さまで整地層が続き、その下層に厚さ約25cmの灰色粘質土層が存在する。さらにその下層に、厚さ12cm程度の暗褐色砂質土層がある。この土層は、その直下の地山面に形成された遺構の埋土となっている。

遺構は、径10cm～30cm・深さ10cm未満のピットが17と、深さ15cm程度の土坑および溝を5箇所で検出した。

遺構埋土から、遺物の出土をまったくみなかつたために、この遺構が形成された時期は不明である。



第16図 陶邑窯跡群94—1区 調査箇所



- 1. 整地層
- 2. 灰褐色砂質土（整地層）
- 3. 灰色粘質土
- 4. 暗褐色砂質土

第17図 陶邑窯跡群94-1区 造構平断面図

陶邑窯跡群94-2区発掘調査報告

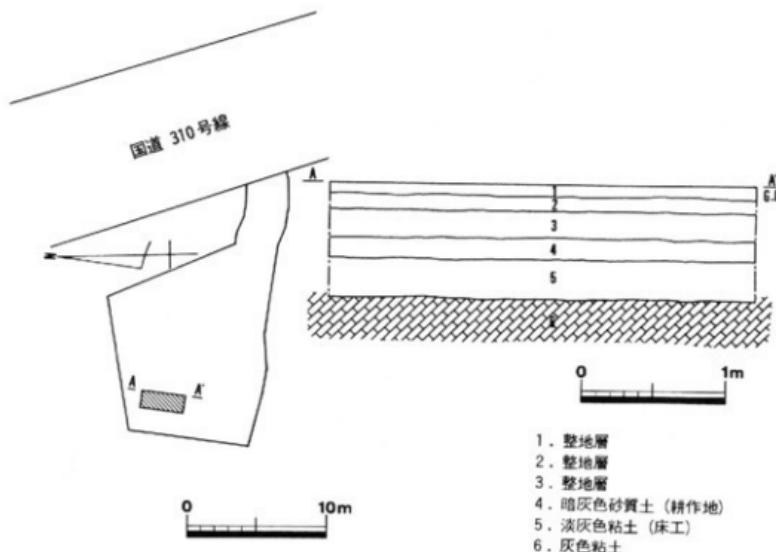
陶邑窯跡群94-2区は、大阪狭山市池之原三丁目1017-2・1024-2に所在する。本調査区は、狭山池西岸の中位段丘上に立地する。

調査は第18図の箇所に南北3.0m・東西1.2mの調査区を設定して、平成7年2月20日から同月22日まで実施した。

(1) 層序

現況の地表面から約40cmの深さまでは、整地層が続く。その下に、厚さ約16cmの暗灰色砂質土層があり、さらにその下に厚さ約30cmの淡黄灰色粘土層が存在する。この直下で、非常に堅い灰色粘土の地山面に達する。

地山面で遺構の検出を試みたものの、当該調査区内では、遺構の存在を認めるには至らなかった。また、各層における遺物等の包含も確認できなかった。



第18図 陶邑窯跡群94-2区 調査箇所と土層断面図

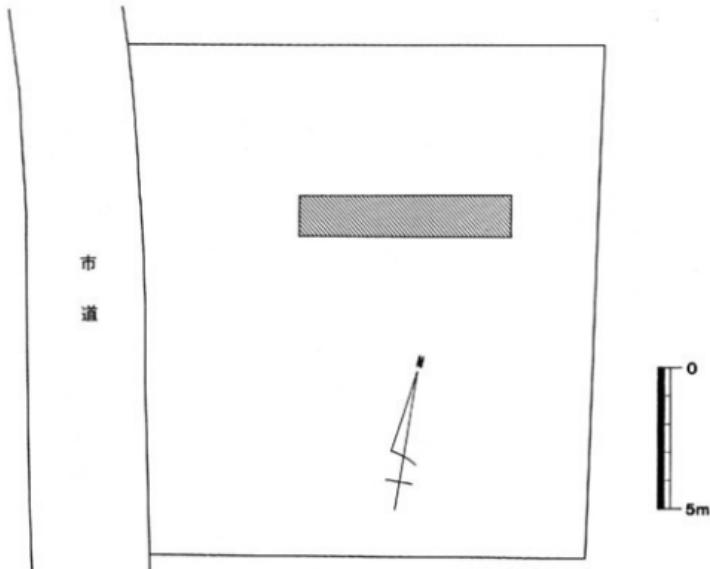
陶邑窯跡群94—3区発掘調査報告

陶邑窯跡群94—3区は、大阪狭山市山本中1178・1177-2・1179-1に所在する。当該地は、陶器山丘陵の北東に形成された高位段丘上に立地する。調査地は西高野街道に接している。調査は第19図の箇所に南北1.3m・東西7.2mの調査区を設定して、平成7年2月23日から同月28日まで実施した。

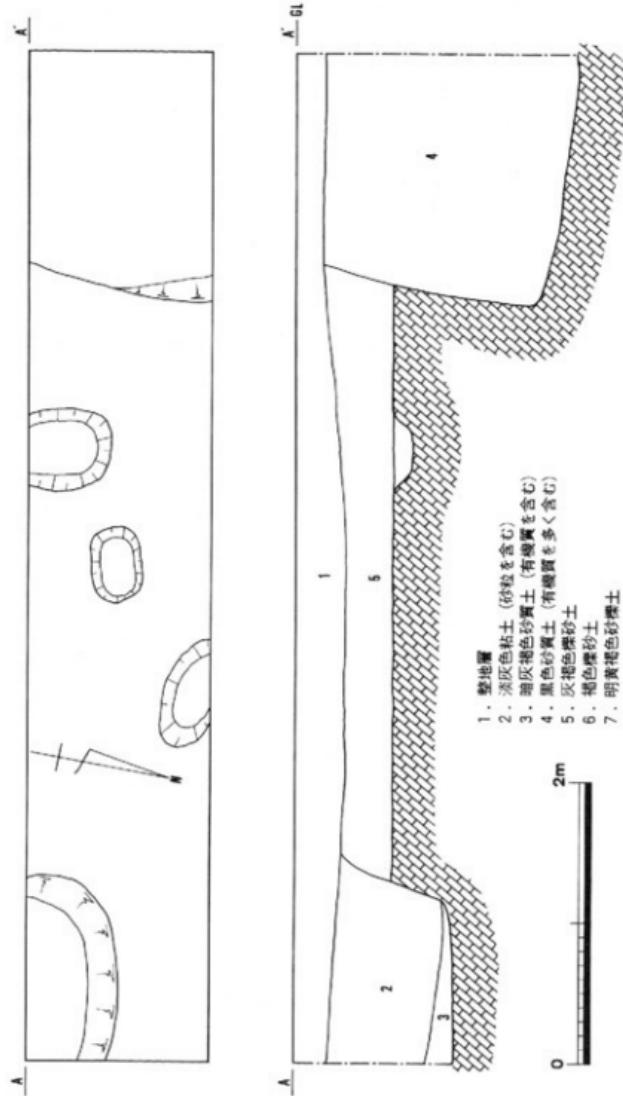
(1) 遺構と層序

現地表面から20cm～36cmの深さまで整地層が続き、その下層に厚さ35cm～50cmの灰褐色疊砂土層が存在する。この層の上面から掘込まれた土坑が、調査区内の東端と西端で検出された。西端の土坑は深さが1.8mもある。埋土は有機質が腐食した黒色砂質土層である調査前に当該地の所有者から、第2次大戦中に使った食料貯蔵穴「イモアナ」がこの箇所にあった旨を聞いていたので、この土坑はおそらくそれであろう。東端の土坑はノッボと思われる。底部付近の暗褐色砂質土層中から、青緑色のガラス瓶が出土した。栓がされており液体と腐食した固形物が内部に残存していた。イモアナと同時期のものか。

地表面では、径60cm前後のピットを3検出した。この遺構に伴う遺物はなく、時期は不明である。



第19図 陶邑窯跡群94—3区 調査箇所



第20図 陶邑窯跡群94-3区 遺構平面図

4. 新池遺跡

新池遺跡は、茱萸木新池が造られている支谷とその周囲の中位段丘上に広がる、縄文時代と古墳時代の遺物散布地である。新池遺跡はその東端を除くほぼ全域が、陶邑窯跡群として認知されている埋蔵文化財包蔵地と重複している。このため、茱萸木新池の西岸にはTK43型式・TK209型式の須恵器片や窯壁片が散布する箇所が確認されており、新池遺跡内における開発の際には、須恵器窯跡に関連する遺構の存在にも充分注意を払う必要がある。

新池遺跡94-1区発掘調査報告

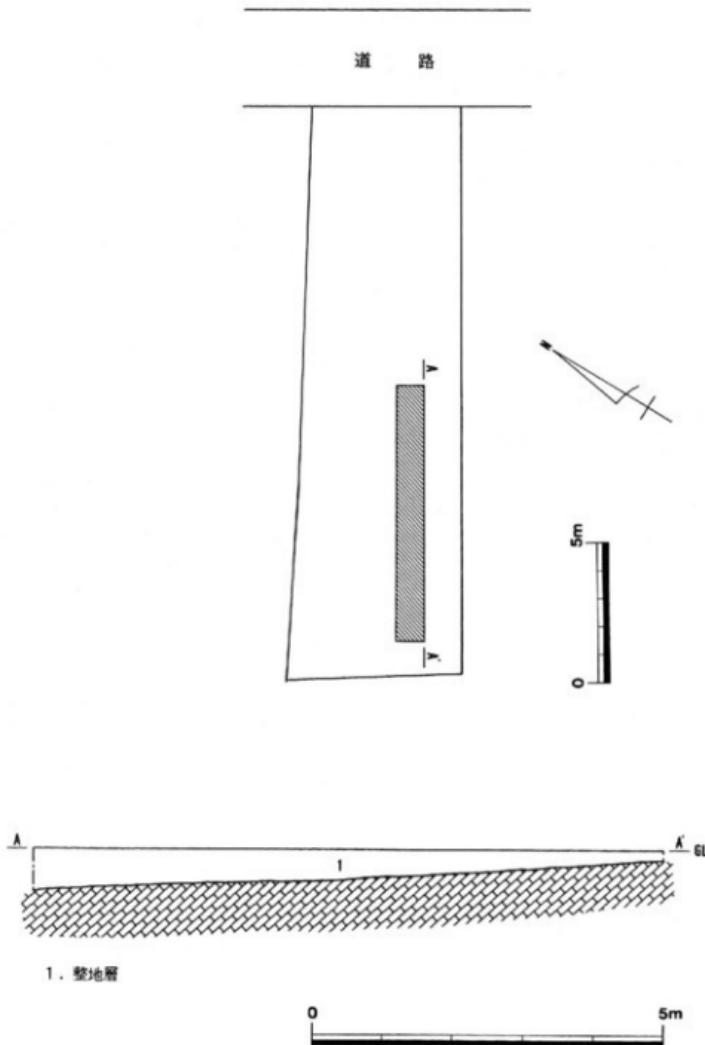
新池遺跡94-1区は、大阪狭山市今熊二丁目1815-3に所在する。本調査区は、帝塚山学院大学のある西山の高位段丘の斜面裾に立地する。(第14図)

以前、この斜面裾に並ぶ宅地から、須恵器が良好な状態で採集されたことがあった。

このため、この高位段丘斜面にある須恵器窯跡に関わる遺構が、当該地に存在する可能性を考えて調査を行なった。調査は第21図の箇所に長さ9m・幅1mの調査区を設定して平成6年11月21日から同月25日まで実施した。

土層観察の結果、現地表面から最大60cmの深さまで整地層が続き、その直下で地山面となる。現況では、地山面は緩やかな傾斜で西側の斜面へ向けて登っている。しかし、北側の隣地では西山の斜面の裾が、本調査区西端から東へ2~3mに相当する箇所まで残存している状況が目視観察される。ゆえに、当該地の地山面は、宅地造成時に西山の斜面裾部分を削平して、その平坦面を確保したものと推定される。

また、地山面において、遺構の検出を試みたが確認できなかった。遺物等も検出されなかった。



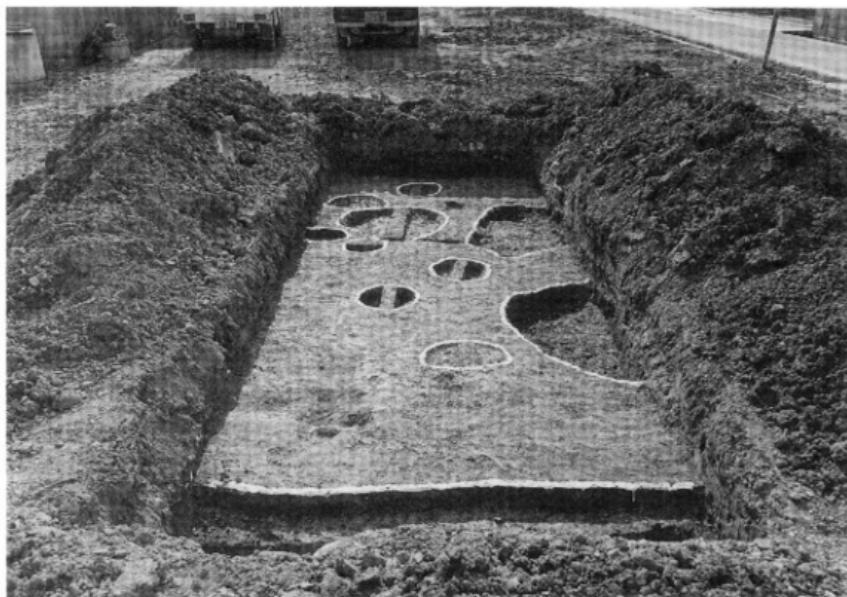
第21図 新池遺跡94-1区 調査箇所と土層断面図

報告書抄録

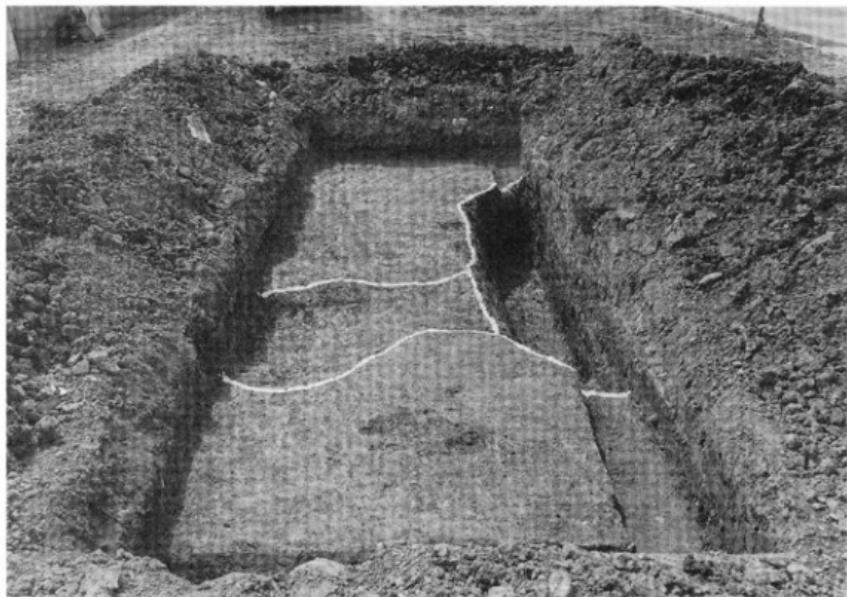
ふりがな 書名	おおさかさやましないいせきぐんはくつちょうさがいようほうこくしょ5					
副書名	大阪狭山市内遺跡群発掘調査概要報告書5					
シリーズ名	大阪狭山市文化財報告書					
シリーズ番号	13					
編著者名	植田隆司・市川秀之					
編集機関	大阪狭山市教育委員会					
所在地	〒589 大阪府大阪狭山市狭山1丁目2384-1 TEL.0723-66-0011					
発行年月日	西暦1995年3月31日					

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
狭山藩陣屋跡	大阪府大阪狭山市狭山	27231	—	34度 30分 15秒	135度 33分 30秒	94-1区 19940414~ 19940415 94-2区 19940418	10 4	個人住宅建設に伴う事前調査
池尻城跡	大阪府大阪狭山市池尻	27231	—	34度 30分 20秒	135度 33分 10秒	94-1区 19940907~ 19940909 94-2区 19941017~ 19941020 94-3区 19940402	16 3 —	個人住宅建設に伴う事前調査
陶邑窯跡群	大阪府大阪狭山市	27231	—	34度 28分 00秒 ~ 31分	135度 32分 10秒 ~ 33分	94-1区 19941114~ 19941118 94-2区 19950220~ 19950222 94-3区 19950223~ 09950228	6 4 9	個人住宅建設に伴う事前調査
新池遺跡	大阪府大阪狭山市茱萸木・今熊	27231	—	34度 29分 15秒	135度 33分 05秒	94-1区 19941121~ 19941125	9	個人住宅建設に伴う事前調査
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
狭山藩陣屋跡	城館跡	江戸時代 18世紀	94-1区／溝：1条 土坑：1	94-1区／磁器：碗・酒杯・ミニチュア德利・皿、陶器：鉢、すり鉢 七重のサナ、土人形、鉄器：引手状金具				
		江戸時代 18世紀~ 19世紀?	94-1区／溝：1、 土坑：3、柱穴：	94-1区／磁器：碗、土鍋	94-1区／屋敷地の境界をなす南北方向の溝を確認。			
池尻城跡	城館跡	鎌倉時代末期~室町時代初頭(94-1~3区は不明)	94-1区／溝：1条	94-3区／石器：スクレイバー、磁器：碗、キセル雁首				
陶邑窯跡群	生産遺跡	古墳時代中期~終末期(94-1~3区は不明)	94-1区／柱穴：17 溝：1、土坑：4 94-3区／柱穴：3	なし				

図版



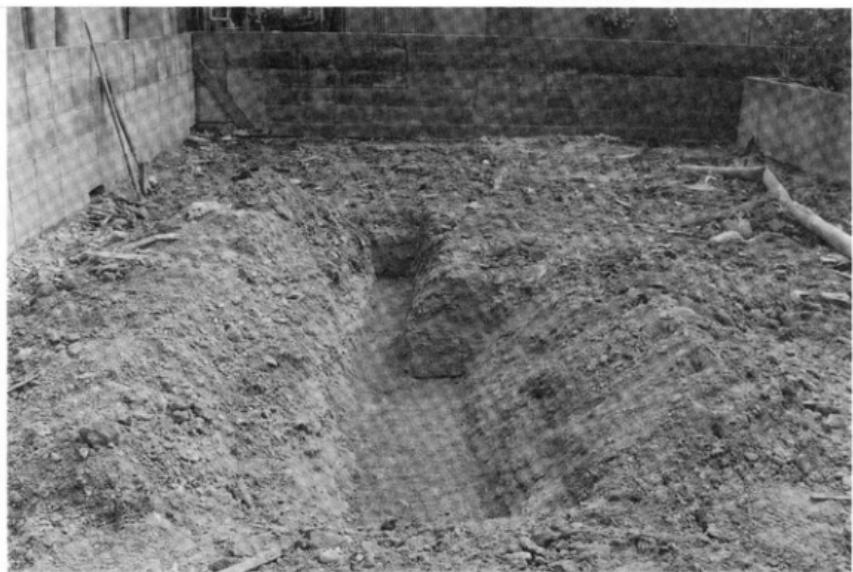
a. 上層遺構



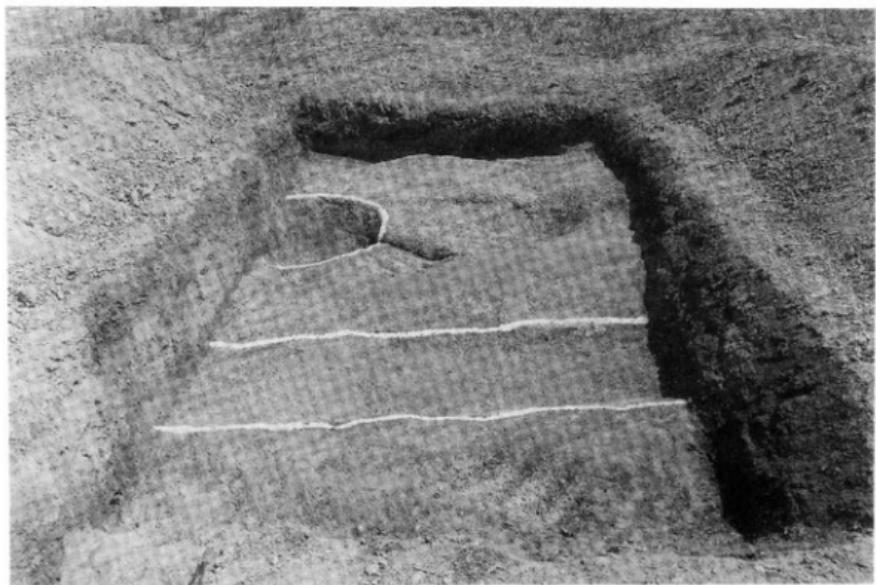
b. 下層遺構

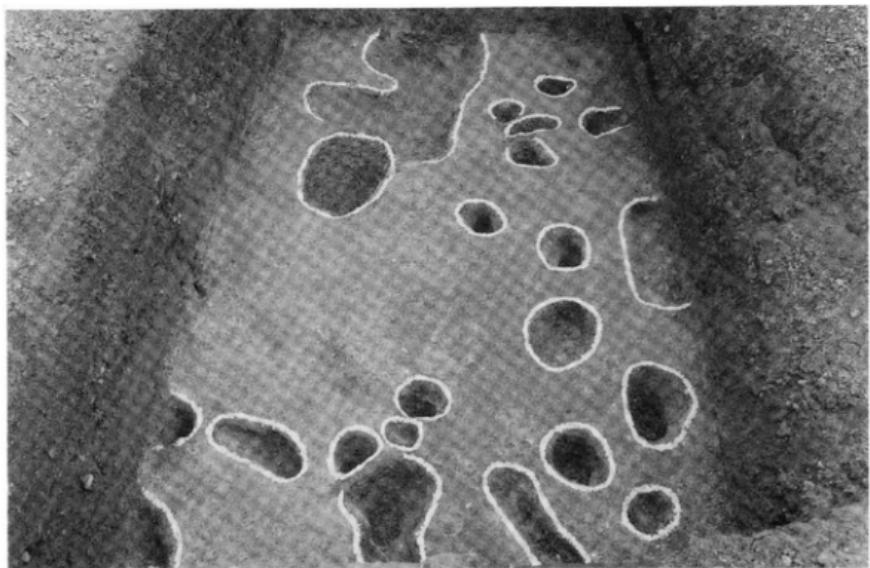


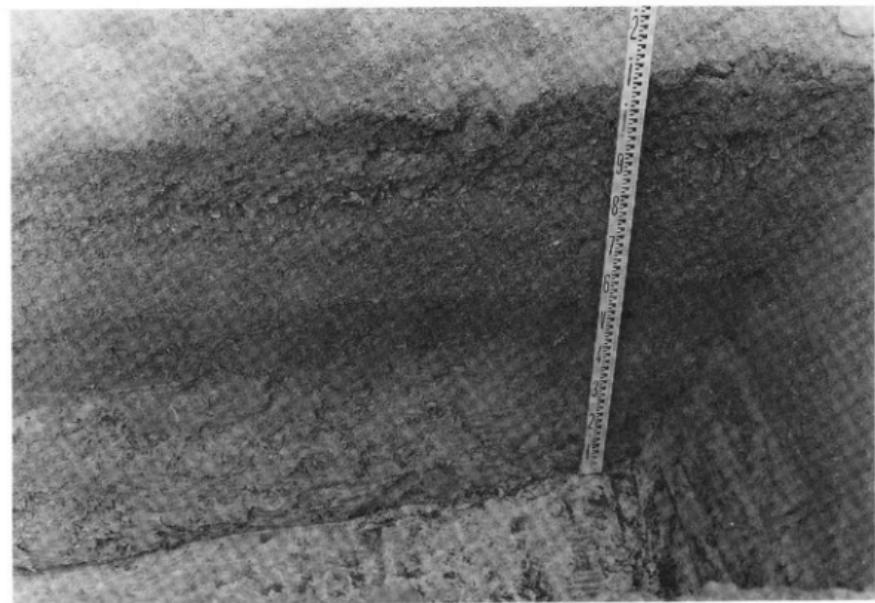
a. 陣屋跡、94-1区下層遺構

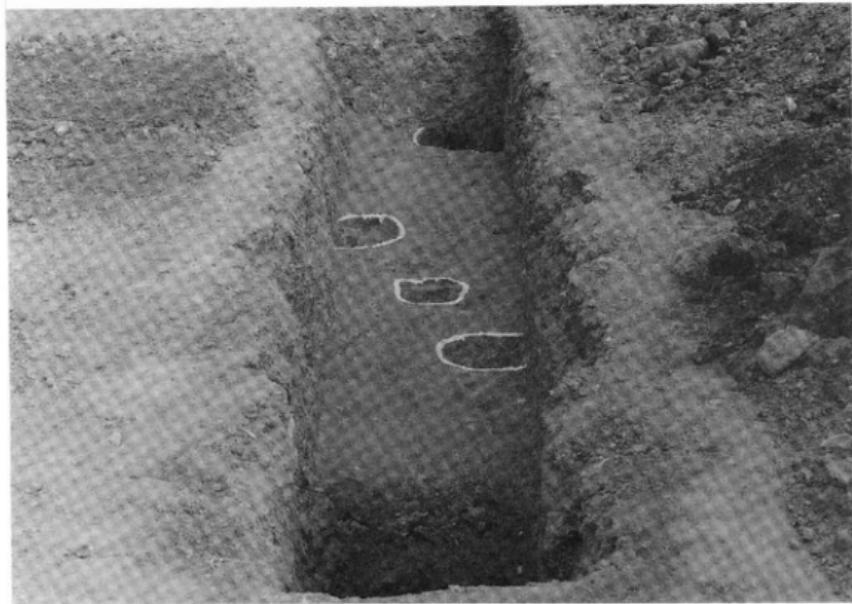
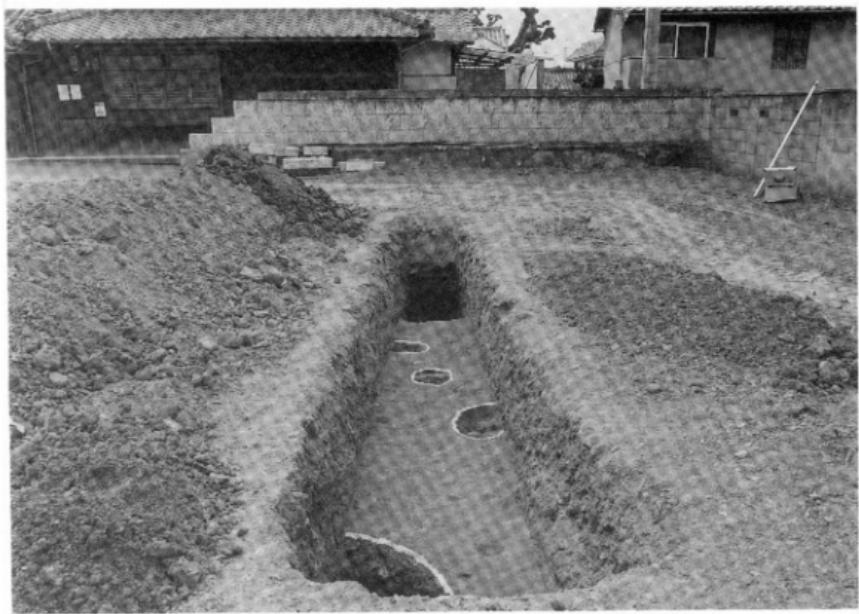


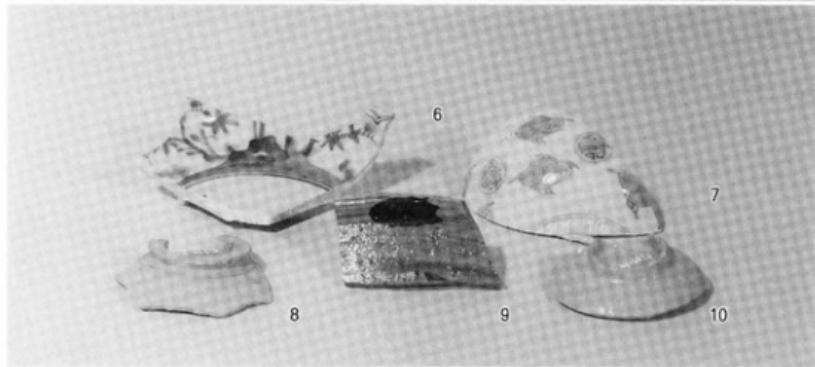
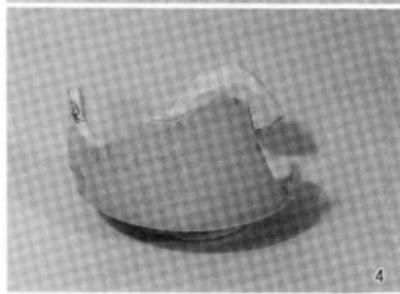
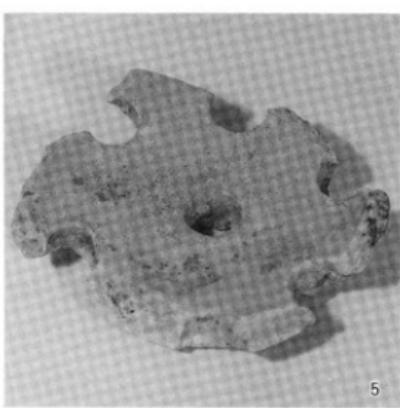
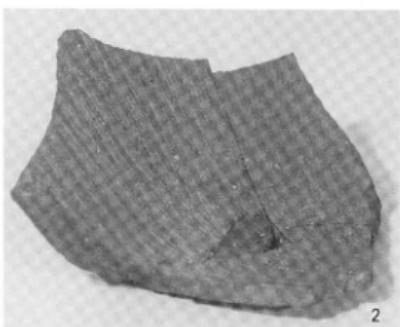
b. 池尻城跡94-2区



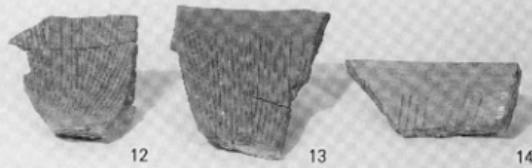








(1・2:上層造構、3~10:下層造構)



(11~14: 狹山藩陣屋跡94-1区下層遺構)
(1~3: 池尻城跡94-3区)

大阪狭山市文化財報告書13

**大阪狭山市内遺跡群
発掘調査概要報告書5**

発行日 平成7年3月31日

発 行 大阪狭山市教育委員会

印 刷 橋本印刷株式会社

